

潮流

2018・5・13

“する男”と“しない男”
の分岐点は、セクハラを“男
性問題”として主体的に受け

止められるかどうか。長く労働相談の仕事に携わった金子雅臣さんが『壊れる男たち』でふれています▼金子さんがこの本を出したのは12年前。当時、本紙のインタビューにこうも答えています。「男性にはみんな加害性があるかという、そんなことはない。分けるのは他人の痛みを共感できるかどうかだと思います」▼成り行き、酒の上のこと、合意だったはず。告発された者たちが相も変わらず口にする言い訳。なぜ、彼らは自らの加害に無自覚なのか。そこには、相手の人格を否定してでも自分の欲望を遂げようとする差別的な姿勢が見えると▼単なる鈍感さでは済まされない人権侵害。この人など、その典型でしょう。前財務次官のセクハラ問題をめぐり、「はめられた可能性は否定できない」「セクハラ罪という罪はない」と繰り返してきた麻生太郎財務相です▼傷つけられた被害者をさらに苦しめる。当事者が辞任しても、再発防止の研修会を開いても、トップに立つ人がこれでは組織全体が無反省と見られて当然です。暴言王といわれる麻生氏にはセクハラへの認識とともに、他者への共感や敬意が著しく欠けています▼安倍政権下で女性をさげすむ発言が相次いでいます。そういえば、あの「女性は産む機械」と口にしたのも第1次安倍内閣の大臣でした。麻生氏のような人物がいつまでも中枢に居座る政権では“する男”がはびこるだけです。

核兵器廃絶を求めて平和行進

一緒に歩きましょう

5月26日(土) 10時～

市役所前集合

集会の後、みんなで歩きます

原水爆禁止和歌山市平和行進実行委員会
073-424-6533

朝鮮半島での平和の激動には、このところ驚きの連続です。日本共産党は、北朝鮮の核開発問題でも、拉致問題でも、圧力一辺倒でなく、ねばりづよく対話をすすめることを呼びかけてきました。去年、北朝鮮が次々とミサイルを打ち上げているなかで、私はこの対話路線を頭ではわかって、

周りの人々に訴えることができませんでした。日本共産党の先見性では、東日本大震災の前に、大規模な津波が原子力発電所を襲う可能性を国会で追及していました。やはり赤旗をしつかり読んで、身に着けないといけないと反省しています。

こんにちは

井本ゆい子です



暴走政治ストップ!!

県革新懇シンポジウム

～今、和歌山市で

市民と野党に求められていることは～

5月27日(日) 13:30開会

中央コミセン小ホール

- コーディネーター・問題提起
和歌山信愛女子短期大学教授 伊藤宏氏
- パネラー
各政党・市民団体
- フロアー発言を予定しています

和歌山県革新懇
県教育会館内 423-2261